

感染症発生動向調査委員会報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザが昨シーズンより6週早く、警報解除基準値(定点あたり10.00)を下回りました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。

全数把握疾患 2月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件
腸チフス	1件	急性脳炎	4件
パラチフス	1件	クリプトスポリジウム症	1件
A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
つつが虫病	1件	ジアルジア症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	11件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	6件
ウイルス性肝炎	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞1件(O157VT1VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。

＜腸チフス＞1件の報告がありました。インドネシアでの感染が推定されています。

＜パラチフス＞1件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。

＜A型肝炎＞1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されていますが感染経路等不明です。

＜つつが虫病＞1件の報告がありました。ラオス(ルアンナムター)での感染が推定されています。

＜デング熱＞1件の報告がありました。インドネシア(バリ島)での感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型3件の報告がありましたが、それぞれ明確な感染経路等不明です。各症例について引き続き感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症1件と腸管アメーバ症及び腸管外アメーバ症1件の報告があり、どちらも国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。

＜ウイルス性肝炎＞B型肝炎の報告が1件ありましたが、感染経路等不明でした。

＜カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症＞6件の届出がありました。院内での集団感染等はありませんでした。

＜急性脳炎＞4件(すべて幼児)の報告がありました。そのうち2件はインフルエンザA型(いずれも予防接種歴不明)でした。他の病原体については現在検索中です。

＜クリプトスポリジウム症＞1件の報告がありました。フィリピンでの水系感染が推定されています。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者1件、AIDS 2件、その他1件の報告がありました。3件は国内での同性間性的接触、残る1件は日本又はインドでの感染が推定されており、感染経路は不明でした。

＜ジアルジア症＞1件の報告がありました。カンボジア(シェムリアップ)での経口感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞11件の報告がありました。50歳代が2名、60歳代が3名、70歳代以上が6名でした。そのうち70歳代の1件は3年ほど前に予防接種を受けていましたが、他は予防接種歴は無いか確認できませんでした。

＜水痘(入院例に限る)＞学童1件(検査診断例。予防接種歴2回有り。)、50歳代1件(検査診断例。予防接種歴不明)、70歳代1件(臨床診断例。予防接種歴不明)の届出がありました。

＜梅毒＞晩期顕症梅毒2件(1件は異性間性的接触、もう1件は感染経路感染地域等不明)、早期顕症梅毒I期1件(国内での異性間性的接触)、無症候期2件(どちらも国内での感染で、1件は同性間性的接触、もう1件は性的接触)、病型確認中1件の報告がありました。

＜バンコマイシン耐性腸球菌感染症＞1件の報告がありましたが、院内感染等はありませんでした。

定点把握疾患

平成27年1月26日から平成27年2月22日まで
(平成27年第5週から平成27年第8週まで。ただし、性感染症については平成27年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

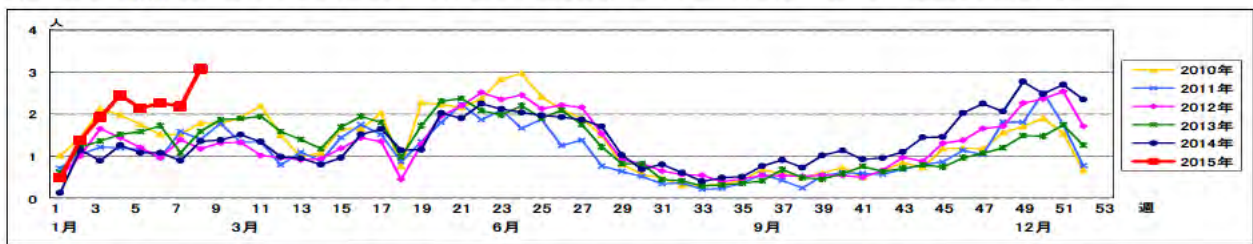
平成27年 週一月日対応表

第5週	1月26日～2月 1日
第6週	2月 2日～2月 8日
第7週	2月 9日～2月15日
第8週	2月16日～2月22日

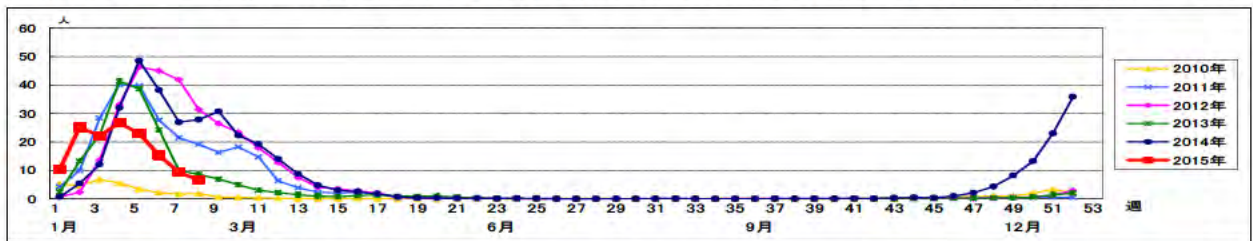
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:94か所、内科定点:59か所、眼科定点:22か所、性感染症定点:29か所、基幹(病院)定点:4か所の計208か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計153定点から報告されます。

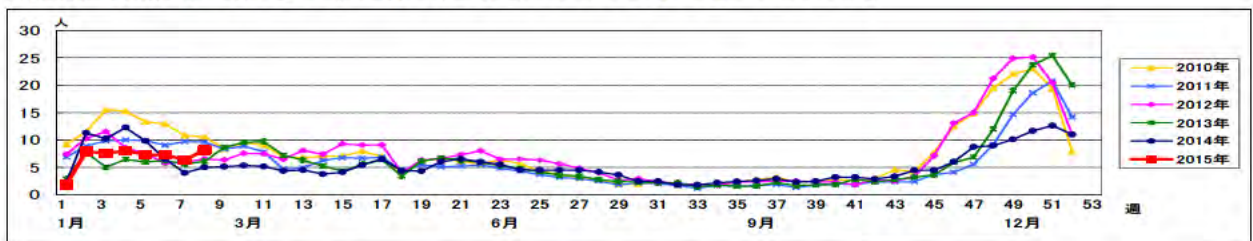
<インフルエンザ>第7週に定点あたり9.30と、昨シーズンより6週早く警報解除基準値(10.00)を下回りました。第8週は6.57とさらに減少傾向です。今シーズンは、シーズン後半になってもB型の著明な増加は見られず、第8週で迅速キットの結果はA型86.8%、B型13.1%、AB型0.1%となっています。



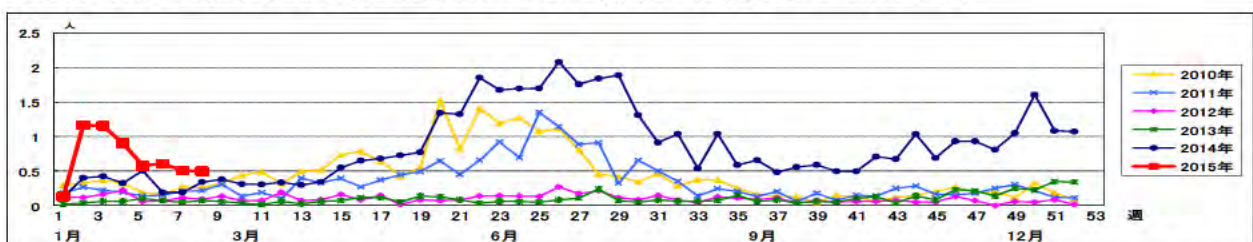
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>第8週は市全体で定点あたり3.07と、この6年間で最も多くなっています。



<感染性胃腸炎>第8週は市全体で定点あたり8.18と落ち着いています。



<伝染性紅斑>第8週は市全体で定点あたり0.49と、徐々に減少しつつあります。



<性感染症>1月は、性器クラミジア感染症は男性が12件、女性が11件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が15件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第5週0.33、第6週0.00、第7週0.00、第8週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第5週0.67、第6週0.00、第7週0.33、第8週2.00と報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件、内科定点13件、眼科定点3件、基幹定点3件でした。

3月9日現在、ウイルス分離37株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	胃 腸 炎	発 疹 症	耳 下 腺 炎	そ の 他
アデノ 3型	1						
アデノ NT	1	1			1		
インフルエンザ AH1pdm09型			1				
インフルエンザ AH3型			27			1	
インフルエンザ B型			6				
パラインフルエンザ 2型	1						
ヒト メタニューモ	3						1
ヒト コロナ OC43型	2				1		
ライノ	2						
単純ヘルペス 1型	1						
ロタ				2			
ノロ				2			
合計	2 9		34	4	2	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から1件、その他が5件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2)、チフス菌がそれぞれ1件、パラチフスA菌が3件検出されました。チフス菌はインドネシアへの渡航者から、パラチフス菌はミャンマー、インドへの渡航者から検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科からが2件、基幹定点から1件、その他が15件でした。バンコマイシン耐性腸球菌はvanB遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	2月			2015年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
腸管出血性大腸菌			1			2
チフス菌			1			1
パラチフスA菌			3			3
不検出	0	1	0	0	6	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	2月			2015年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		2		3
	T4			2		
	T28	1		2		3
	型別不能			2		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	1
<i>Legionella pneumophila</i>						1
肺炎球菌			4		1	20
<i>Neisseria meningitidis</i>						1
百日咳						1
その他		1	4		2	4
不検出	0	0	6	0	0	14

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】